



「四大元素」(P119/P141/P47,131/P125)の連作のほうは、複数のパネルが多く美術館に散らばり、個人蔵のものもあるため、再現が難しい。しかしアルチンボルドは明らかにこの連作を「四季」と対にすることを意図していた。アルチンボルド自身の科学への興味、そして皇帝のありとあらゆる珍しいものを収集する趣味が、この「四大元素」(大気、火、大地、水)の絵画に反映されている。フォンテオは詩の中で「元素は人間の姿を使い、神のようなオーストリアの栄光をあがめるための頭を持つことによって、四季を再結合させている」と言っている。

「火」(細部1)

1566年

木板に油彩、66.5 x 51 cm

ウィーン 美術史美術館